

# 障害者の作品 信金で展示



眞役

ていると感じたこと振り返る。大河ドラマ「どつする家康」に、同役で出演。榎葉間の戦いで偉大な父・義元を失い、家臣の離反も相次ぐ中で孤独を暮らせる「若きつり



「絵で人の心を和らげたい」と話す清水優旭さん  
— 浜松市中区の浜松いわた信用金庫本店営業部で

# 心絵で和らげたい

県西部の障害者が描いた絵画の展示が、浜松市内の浜松いわた信用金庫の四店舗で開かれている。本店営業部（中区元城町）の入り口には、中区の清水優旭さん（25）の「伝説の鬼」を飾った。清水さんは「趣味で描いた絵を見てもらえるのは不思議な気持ち。絵を見た人の心を和らげたい」と話す。（高島碧）

清水さんは生まれつき腎臓に病気があり、軽度知的障害と身体障害がある。「伝説の鬼」は、清水さんが浜松養護学校（現浜松特別支援学校）高等部の時に描いた。教諭に「絵がいいね」と言われ、特技に気づいて自主的に描いた。百種

類の色鉛筆を使い、黄色や赤色と鮮やかな色を塗り重ねている。「伝説の鬼は、日常のつらいことと邪心に立ち向かう正義の鬼。絵を見てつらいことを忘れてほしい」と願った。七月末まで、ほかにも追

分、板屋町、伝馬町の各支店で一作品ずつ展示している。その後も四作品が四カ月ごとに別の支店を巡回し、来年三月まで鑑賞できる。

展示は県の「まちじゅうアート」事業の一環。障害者の創作活動を支えるNPO法人「アートコネクトしずおか」（静岡市）から企業が絵を借りて、その賃料の一部が障害者の収益になる。信金は、一年前から取り組みに参加している。



# 見上げれば白い花

白い小さな花が房状に付くウワミスズバラが、浜松市浜北区の「万葉の森公園」で咲き始めた。いくつもの直径5ミリの花が、長さ10センチ前後にわたってコップを洗うブラシのようになり、上を見れば

木を燃やしたとされ、木の表面に溝を彫ったことから「上溝桜」と呼ばれるようになったという説もある。公園には高さ10センチほどに育った3本があり、6日は二分咲きほどだった。公園の担当者によると、つぼみ

# ウワミスズバラ 浜松で咲き



# サクソフオーン中学生の部

# 浜松の長瀬さん

三月に開催された日本ジュニア管打楽器コンクール「サクソフオーンの部」に、浜松市立長瀬中学校の部員として参加した長瀬さん。演奏は、

った十三人の部員で、演奏は、